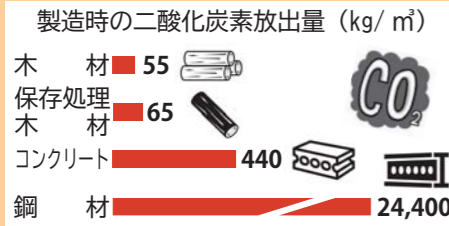
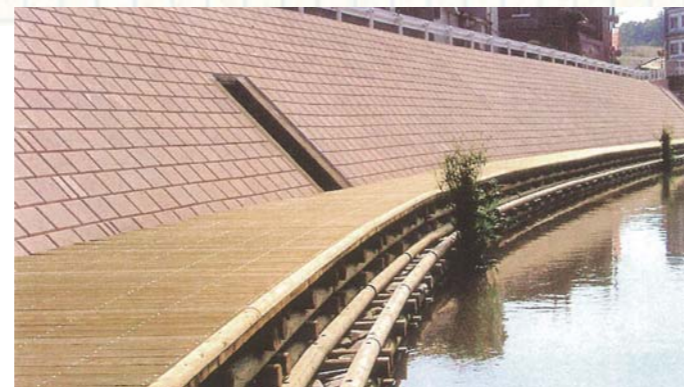


SDGsの取り組み



エコな原材料「木材」

木材を製造（製材）する際の二酸化炭素排出量は、コンクリートの約15%、鋼材と比較すると約0.2%となり、極めてエコロジーな原料といえます。さらに間伐材を使用することにより、適切な森林管理にも一役買っています。



長く愛されるために木材を長持ちさせる技術

木製品は腐ると二酸化炭素を排出してしまいますが、適切な保存処理を行うことで腐食を防ぐことができます。無処理材の杉は、屋外の場合2〜3年で腐朽してしまいますが、保存処理を施したものは30年以上長持ちさせることができます。弊社がリナシテイ

ココに注目!!



株式会社 アリモト工業



まちのおしごと

やってみたい仕事が見つけよう!

VOL. 11



株式会社 アリモト工業

- 住所 鹿屋市串良町上小原 1888 (本社・工場)
- 電話 0994-63-2308
- 創業 昭和27年 ○代表者 有元 政信
- 従業員数 23人 (社員・パート等含む)
- 平均年齢 48歳 ○勤務時間 8.0時間
- 採用実績 4人 (令和3年度)
- 福利厚生 各種保険 (雇用、健康、厚生年金、労災)、通勤手当、退職金制度 等



岸に施工した遊歩道は木材の天敵ともいえる多湿環境ですが、15年以上経過した今でも耐久性を有しています。

この防腐・防蟻処理が弊社の「O&Dウッド処理システム」であり、様々な実績が評価され、国内の木材製品では初となる損害保険会社による10年保証を実現しました。

木材の能力はまだ未知数。今後も実績を重ねながら日本の資源である木材の可能性を追求していきます。



▲「O&Dウッド処理システム」工程の一部。タンクに入れた木材に防腐加工を施し (写真左)、薬剤を定着させるための養生を行う (写真右)。

日本の木材を使って未来につないでいく

弊社はシロアリ駆除を行う会社として、先代である私の父が昭和27年に創業しました。その後、私が父の跡を継ぎ「日本一の下請けになろう」と、シロアリ防除技術を活用して木材への防腐加工に取り組みようになりました。現在では木材を中心とした構造物の設計・加工・施工などを行っています。

誰でもできる仕事ではなく「わが社でなければできない仕事」によって他社との差別化を図っており、特に木材への防腐処理については独自の技術を取り入れ、徹底した処理を施すことで長く使用し愛される製品を目指しています。

また、二酸化炭素 (CO₂) のもととなる炭素 (C) を内包する木材は「炭素の貯蔵庫」と呼ばれ、木製品を活用するだけで大気中の二酸化炭素の減少に貢献することが可能です。しかし、木材が腐ってし

まうとせつかく固定されていた炭素を二酸化炭素として放出してしまうようになりません。そこで、適切な防腐処理を施すことで腐らない・腐りにくい木材の高耐久化を図ることができ、近年叫ばれる脱炭素社会に大きく役立つと思っています。

弊社の事業は隙間産業であるため、座して待つのではなく常に動き続ける世の中の動きを捉え、視野を広げていかなければなりません。そのため、大隅地域や県内だけでなく、東京や大阪などの県外への事業拡大にも取り組んでおり、今後は国内にとどまらずグローバル化を見据えたマーケティングにも力を入れていきます。



株式会社アリモト工業 有元 政信 代表取締役



中国料理 孫悟空

〒893-1602 鹿屋市串良町有里 49-1
☎0994-63-0533
店休日 水曜日
営業時間 11:30 ~ 14:00

《近場のおすすめスポット》

家族で「ごはんどこに食べに行く?」となったときによく行くお店が「孫悟空」です。店内飲食だけでなく、テイクアウトや24時間自動販売機も設置してあるので利用しています。

私は辛い料理が好きなのですが、母はそれに輪をかけた辛い物好きで、そんな私と母の好きなメニューが「担々麺」。単純に辛だけでなく旨辛な味付けとなっているため、痛み付きになるおいしさです。もちろんほかの料理もおいしいですので、ぜひ皆さんも食べてみてください。

工務1課 設計係 一松 優斗 さん (26歳/入社7年目)



肝付町出身、鹿屋工業高校卒。高校生の時にスキューバダイビングを始め、免許を所有している。佐多の海によく潜っており、毎週ダイビングをしていた時期も。

《私の仕事》

私は公園等にある休憩小屋や柵などといった景観事業に係る設計や加工管理を担当しています。高校卒業後に入社したため社会経験が浅く分からないことが多かったのですが、相談や悩みを聞きやすい環境で、先輩方も優しく教えてくれます。

実現不可能なものを作り上げることはできないので、完成形をイメージしながら製図し、お客様とやり取りをしながら現場の職人さんと調整を行う。そうして出来上がったものを見ると喜びが湧きますし、やりがいを感じます。

これからは、新しいデザインや木材の使い方に挑戦して経験を積んでいきたいです。